

取扱上のご注意

選択上のご注意

- フロアタイルの耐久性は歩行量、使用環境によって異なります。ご選定の際は製品の耐久性以上の用途での使用はお避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 下地からの湿気の上昇や、摩擦熱、火花の飛び散りが予想される場所ではご使用をお避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。またエンボスが深い、あるいは細かいほど汚れが残りますのでお含みおきください。
- 濃色系やフラットな表面形状はキズが目立ちやすくなりますのでお含みおきください。
- 家具の下の暗所、密閉されるような環境、高温多湿、酸性ガス(NOx、SOx)などの条件が揃うと床材が変色する場合があります。これらの条件が揃わないようご注意ください。やむを得ずそのような箇所に施工の際は暗色系の床材をご選定ください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですので取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取扱いはフロアタイルの破損だけでなく、傷害や器物破損などを招く場合があります。
- フロアタイルは梱包を解かず平坦な場所に保管してください。積載は高さ70cmを限度とします。積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態、雨水などによる水濡れは、変形・変退色・変質の原因となります。

施工上のご注意

- 梱包ケースに記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- フロアタイルや接着剤は施工時の温度に大変影響を受けやすく、低温時は特に接着剤の接着力が弱くなり完全接着までには時間がかかります。理想的な施工温度は15～25℃ですが、それよりも室温が低い場合はジェットヒーターなどの暖房機で現場を暖めるなどして、施工の前後12～24時間はこのような室温を保ち、フロアタイルも箱から出して現場と同様の室温に保管し、なじませる必要があります。室温と床材に温度差があると施工直後だけでなく、後日、目地隙、突き上げなどをおこすことがあります。
- タイル裏面の矢印で流れ方向をご確認ください。方向が変わると色差のように見えることがあります。
- 各商品別に施工上のご注意・接着剤等が異なりますので、商品掲載ページの施工上のご注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合があります。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、十分な強度があり、接着力を低下させるような構造的欠陥がないようにしてください。多孔質でもり下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 木質系下地の目地部、凹み、釘頭部は適切なコンパウンドで補修してください。床材表面への継ぎ目段差や凹み跡の現出、釘に使用された防錆剤等により床材を変色させる恐れがあります。
- 木質下地に含まれる防虫剤や防腐剤により床材を変色させる場合があります。
- 鉱物ベースの下地(モルタル・コンクリートなど)で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜、もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- クッション性の大きな下地にフロアタイルを施工すると沈み込みによる段差や端部のめくれ、層間剥離などの不具合が生じる場合があります。
- 下地にワックス、グリス、油脂類、塗料などの汚れ、ペン、ラッカーによるマーキングなどが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- 接着の前にフロアタイルを一旦仮置きして、色柄の備りがないかご確認のうえ施工してください。
- 接着の際は、床材の指定接着剤をご使用のうえ、接着剤指定のくし目こてで均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがI(一般工法レベル)の場合でも、耐湿工法用接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤をご使用の際は火気にご注意のうえ、室内の換気を心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 床暖房下地の場合は、下地づくりから含めた施工上のご注意と接着剤のご選定が必要となります。
- コンパネ、二重床、塗床、タイルの重ね貼りなどの非吸水性下地にピールアップ工法以外で施工する場合は、耐湿工法用接着剤をご使用のうえ、接着剤の乾燥を促進させる必要があります。
- タイル同士に若干の寸法差が生じる場合があります。目地ずれが大きくなりうるうちに調整しながら施工してください。
- 施工中は他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物やキャスター椅子などによるしこきなどは避けてください。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートをご使用になった場合、フロアタイルと養生シートの間に結露水や水蒸気、溶剤蒸気などがこもり、フロアタイルの反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、通気性のあるものを、接着剤が十分硬化してからご使用ください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けしないでください。床材を汚染する原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙や突き上げ、膨れなどを招く可能性があります。これらは美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニル床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。



床暖房下地に関する施工要領書はこちら

下地水分の測定と判断基準について

ビニル系床材は下地との接着力が耐久性や他の諸性能に大きな影響を与えます。そのため施工前下地水分の確認とそれに応じた接着剤の選定が重要です。その判断基準として高周波静電容量式水分計「HI-520-2型」に備えられているDモード(ダイレクトモード)の表示値を用いたグレード分け(下表)を施工方法の目安としておすすめいたします。

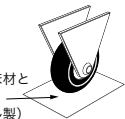
グレード	表示値	従来の下地水分指標	施工方法目安	下地:コンクリート・モルタル セルフレベリング材 水分計:HI-520-2(選択)D.MODE 設定条件:(厚さ)40mm(温度)AUTO
I	440未満	8%以下	一般工法	
IIa	440以上 620未満	8～10%	耐湿工法推奨	
IIb	620以上	10%以上	施工不可	

表示値は静電容量に一次相関のある単位のない数値です。

維持管理ならびに使用上のご注意

- 水濡れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。フロアタイルの摩耗、キズつきを防ぎ美観を保持するだけでなく、寿命を延ばす効果があります。
- フロアタイルは熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどは避けてください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接フロアタイル表面に当たることを避けてください。ホットカーペットなど暖房器具の熱が長時間にわたり加わると、変質や変色、突き上げや膨れの原因となります。
- 重量物や車輪のしこきによって、フロアタイルの表面を傷つけたり膨れを発生させる可能性があります。引かずったり、にじらないようにしてください。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、フロアタイルの剥がれ・反り・膨れ・突き上げの可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけてください。
- 接着剤が完全に硬化してから水のご使用をできるだけ抑えながら表面の汚れを洗浄し、乾燥した後に樹脂ワックスを塗布してください。洗浄が不足するとワックスとの密着性が悪くなる場合があります。
- 床材の汚れの多くは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- トイレでご使用の際は汚れを放置すると尿素焼け等を起こす場合がありますので、こまめに掃除を行ってください。
- しつこい汚れは、クリーナーで除去し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 竣工後は使用環境や汚れの状況に応じた日常の清掃・洗浄と定期的なワックスかけを行ってください。
- ドライメンテナスを行う際はメンテナン業者にお問い合わせください。
- 長時間直射日光があたる場所では変退色や突き上げを招く可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒール等の局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- インクやソース、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤、漂白剤などにより、変退色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品などの影響で、床材自体の変質・変退色や、施工後の反り・膨れ・剥がれ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- タイルの剥がれ・反り・膨れ・割れなどが生じた場合、即座に補修してください。

放置しておく全体に影響が及び、美観を損なうほか転倒事故の原因となります。ゴム製品に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防腐剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変退色する可能性があります。ご使用を避けるか、床に直接ふれないようにしてください。



タイヤ等のゴム製品が床材と接する際は保護シート(アルミ製・ポリエステル製)をご使用ください。

旧→新 対照表

旧品番	新品番	旧品番	新品番	旧品番	新品番
OT-4001	OT-4301	OT-4022	OT-4322	OT-5015	OT-5325
OT-4002	OT-4302	OT-4023	OT-4323	OT-5016	OT-5326
OT-4003	OT-4303	OT-4024	OT-4324	OT-5017	OT-5319
OT-4004	OT-4304	OT-4025	OT-4325	OT-5018	OT-5320
OT-4005	OT-4305	OT-4026	OT-4326	OT-5019	OT-5321
OT-4006	OT-4306	OT-4027	OT-4327	OT-5020	OT-5322
OT-4007	OT-4307	OT-4028	OT-4328	OT-5021	OT-5331
OT-4008	OT-4308	OT-4029	OT-4329	OT-5025	OT-5340
OT-4009	OT-4309	OT-5001	OT-5315	OT-5026	OT-5341
OT-4010	類 OT-4310	OT-5002	OT-5316	OT-5027	OT-5342
OT-4011	類 OT-4311	OT-5003	OT-5306	OT-5028	OT-5345
OT-4012	類 OT-4312	OT-5004	OT-5307	OT-5029	OT-5346
OT-4013	類 OT-4313	OT-5005	OT-5308	OT-5030	OT-5347
OT-4014	類 OT-4314	OT-5006	OT-5309	OT-5033	OT-5335
OT-4015	OT-4315	OT-5007	OT-5305	OT-5034	OT-5336
OT-4016	OT-4316	OT-5008	OT-5310	OT-5035	OT-5337
OT-4017	OT-4317	OT-5009	OT-5317	OT-5036	OT-5338
OT-4018	OT-4318	OT-5010	OT-5318	OT-5037	OT-5339
OT-4019	OT-4319	OT-5011	OT-5329	OT-5038	OT-5350
OT-4020	OT-4320	OT-5012	OT-5330	OT-5039	OT-5351
OT-4021	OT-4321	OT-5013	OT-5324	OT-5040	OT-5352

類:類似品です。(注)旧品番で対照表に番号がないものは廃番となります。

グリーン購入法※ 適応商品について

2006年2月、ビニル系床材がグリーン購入法の「特定調達品目」に認定されました。再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されたものがグリーン購入法適応商品となります。

グリーン購入法とは 2001年4月より施行された「国による環境物品等の調達の推進等に関する法律」です。国や独立行政法人等の各機関が物品等を調達する際には、価格や品質に加え、環境負荷の低減を考慮した物品購入を推進することが義務づけられました。また、地方公共団体・事業者・国民等についても環境物品等の調達を推進することが推奨されています。